

令和4年度 学校評価 (年度末評価)

本年度の重点目標		<p>○児童生徒の主体的な活動の推進及びその指導法の改善</p> <p>○保護者や地域との連携に基づく教育の充実</p> <p>○地域のセンター的機能の充実</p>	
項目担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員駐車方法の明確化と駐車場の整備 ・校内掲示板の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに駐車方法のプリントを掲示し周知する。 ・定期的に全体又は個別に駐車の方法について説明する。 ・PTAとの連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事の関係もあり、駐車パターンがいくつかあるので周知することが難しかった。 ・メールやグループウェアを活用して情報提供ができた。 ・PTAと連携を図りながら、できる範囲で補助ができた。行事前後の準備・片付けや資料配付等、年間の予定を把握し連携を図る。
教務	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間の変更に伴う日課表(校時)及び教育課程の検討 ・新学習指導要領を基にした指導と評価の一体化 	<ul style="list-style-type: none"> ・45分授業の実施に伴い、実践を基に課題を整理し、改善を進める。 ・自立活動の目標を念頭に、個別の指導計画の各教科・領域等の目標を設定する。 ・学習指導要領の全面実施に伴い、三観点評価の充実を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部、各校務分掌に課題を調査し、それぞれ工夫して取り組んでいる状況を共有した。充実した教育課程となるよう、さらに工夫する。 ・自立活動の目標が、個別の指導計画の目標につながってきている。今後も自立活動部と協力して、充実させていく。 ・目標に三観点を明記し、具体的な評価を進めた。手だてを明確にし、三観点評価のさらなる充実を図る。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な通学環境の整備 ・防災、防犯体制の充実 ・いじめ、不登校の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス12コースの安全管理、運行の適正化に努める。 ・交通安全指導を徹底し、事故防止に努める。 ・防災、防犯体制を周知し、共通理解、意識向上を図る。 ・児童生徒の状況について教職員間で共通理解を図り、組織で対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむねスムーズに運行することができた。来年度も安全対策、適正運行ができるように検討を進める。 ・高等部の自転車通学生で軽微な事故があった。関係機関と連携しながらよりよい交通安全指導を計画していく。 ・おおむね計画どおり実施することができた。来年度は感染症対策に加えて改修工事への対応も考慮しながら防災体制を整えていく。 ・いじめの認定が2件あったが、速やかに組織的に対応したことで重大事案に繋がることはなかった。不登校、進路変更について増加傾向にあるので対策を検討していく必要がある。 ・制服、校則の見直しを進めていく。

<p>進路指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部から高等部までの組織的、系統的なキャリア教育の推進と充実 ・卒業後の生活を見据えた地域との連携と充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路デイズの周知や内容の充実、ニーズに応じた進路情報の提供方法の工夫等を通して、保護者の進路指導に対する意識を高める。 ・教職員に対しての本校進路指導の流れの周知、ビジネスマナーの確認等の機会を設ける。 ・他分掌と連携し、早期から児童生徒の抱える課題を関係諸機関と情報共有し、地域の支援体制を整える。 ・雇用予定のある企業を積極的に開拓し、生徒に合った職域の確保をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事へは好評の声が多いが、参加率は横ばいで、保護者の意識向上に課題が残った。より、興味をもって参加しやすい形を再考したい。 ・発信方法の工夫をし、小中学部職員の意識も向上できた。年度初めにもさらに有効な情報提供を積極的に行いたい。 ・会議の出席や業務の分担を複数職員で行い、担当職員への過度な仕事の偏りを防ぎながら、地域や支援機関と支援体制を整えてきた。 ・新規開拓から、就職や体験実習の実施につながられた。
<p>保健体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康づくりの推進 ・食物アレルギー対策の強化 ・安全環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や運動に関する指導を充実させ、望ましい生活習慣を意識させる。 ・担任、養護教諭、保健体育部、学校栄養職員による指導体制の整備を行う。 ・職員管理場所の清掃の際に安全点検も兼ねて清掃を実施し、きれいな学校づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりや担任を通じて気になる児童生徒や家庭に働きかけている。 ・現職研修を通して周知を図っている、さらに個別の対応が必要な生徒を取り上げ研修の機会を設けてより安全な体制づくりを行うことができた。 ・不必要な物品の回収回数を増やすことで、少しずつ使っていないものを処分することができた。
<p>研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の専門性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・現職研修の充実を図る。 ・新しいテーマの全校研究を円滑に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現職研修は、主体的に受けられるよう、選択できるような内容としたり、データ上での公開にしたりするなど工夫して行った。来年度も実施方法や場所を工夫して計画していきたい。 ・年度末のまとめを各グループの実践発表会とし、小グループでの参加型とした。例年のようにまとめとして書面ではなく参加型としたため、資料作成の負担軽減となった。また、次年度は教員のICT機器、教材に対して、より関心をもてるような取組としていきたい。
<p>視聴覚</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機器の有効利用の推進 ・感染予防に努めながらの図書室運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚準備室や視聴覚機器を使いやすく整備する。 ・破損した蔵書の補修を行う。 ・新しい図書を購入し、児童生徒の指導に役立つ図書を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートで授業や行事が円滑にできるように機器を整備した。今後、新しい機器に適したものを選定して、充実を図りたい。 ・視聴覚準備室や体育館放送室の整備をして利用しやすいものとした。 ・新規図書の選定を校務の職員全員で行い、さまざまな視点から図書を選べた。 ・パソコンを使った図書の貸出ができた。引き続き職員への周知を図りたい。

<p>情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の情報活用技能およびセキュリティ意識の向上 ・情報モラル教育の充実 ・GIGA スクール構想によるICTの活用へのサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員用タブレットパソコン等の利用について、有効活用やトラブル等への日常的なサポートを行う。 ・担任や学年、生徒指導部等との連携を密にして、情報モラル教育を進めていく。 ・児童生徒の一人1台タブレット端末の利用環境や利用規定を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他分掌と協力して全校研究を推進したり、ICT支援員と連携して研修や相談の機会を設定したりして、教員の情報活用技能の向上の一助となれた。 ・今年度も、感染症拡大予防のため、外部講師を招いての情報モラル講話が出来なかったが、学校内の授業で実施できるよう、教材や参考資料の提示ができた。 ・児童生徒のタブレット端末の利用について、機器の整備や保管環境の改善に努め、授業でより利用し易いよう、環境整備を進められた。今後も、多くの教員の意見を聞きながら、整備を進めたい。
<p>教育支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援の充実 ・センター的機能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけで解決が難しい問題に対して、チームで解決を図れるような体制を整える。 ・地域の小・中学校の保護者や教員を対象に、たんぽぽ相談や巡回相談、研修会等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーから助言を得ることで、問題を改善することができた。事例については現職研修等で周知していきたい。 ・サポート会議を行う機会が増え、教員間で問題を共有し、チームで支援の方向性を決定することができた。 ・地域の学校を対象に、自立活動に関する研修会を実施した。来年度も、各種相談や研修会を行うにあたり、担当教員の専門性を高めていきたい。
<p>自立活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動に関する情報の収集と発信 ・学習指導支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の指導内容や支援の方法について、情報を収集、紹介することで、教職員の自立活動に対する意識を高め、保護者への理解と協力を求める。 ・自立活動の教材・教具を研究、整理し、授業等で有効活用できるよう紹介する。 ・流れ図・個別の年間指導計画の作成手順を共通理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会「じかつ☆ラボ」を開催した。今後も長期休業等に研修会を開催し、教員の専門性を高めたい。また、通信で情報を発信した。今後も保護者、教員のニーズに合った情報を発信したい。 ・教材・教具展で自立活動教材や活動例について紹介した。今後も有効な教材の開発、紹介をしていく。 ・流れ図、チェックリストについて様式を変更し、作成しやすいものにしていく。
<p>小学部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣や日常生活における基本的な力の育成 ・家庭と連携した安全で安心な支援体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階を自立活動のチェックリスト等を活用して捉え、個々の指導計画を基に、学校生活全般の中で指導を行う。 ・毎日の健康観察、目を離さない行動観察を継続し、体調不良やけが等の家庭への確実な情報提供や情報収集を図り、安全な支援体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の指導を軸に個々に合わせた指導、支援を進めた。それぞれの課題について少しずつ力を伸ばしていくことができた。 ・「報連相」を意識した職員体制で、情報を共有することで、保護者への対応も共通意識をもって取り組むことができた。次年度は、小学部棟の工事も低学年教室に移るため、今年度以上に安全な環境作りを意識して取り組んでいきたい。

中 学 部	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を育成し及び社会生活を営む上での基礎的な能力の向上 ・生徒全員が「分かった」「できた」「やってみよう」と思える授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や返事、ルールや約束事の意識、相手を思いやる気持ち等の育成を家庭と連携を密に図りながら、学校生活全般を通して指導する。 ・生徒の実態や障害の特性に合った題材や単元を考えたり、教材・教具の工夫や環境整備をしたりすることで生徒自身が課題を理解し、自分から取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学校生活、又は実践を通じた教師や友達との関わりの中で、場面や状況に応じて挨拶や返事、ルール等について適切に伝えていくことでそれぞれの生徒の意識が高まっている。 ・生徒達の実態について学年の教師間で情報を共有することで、生徒達の興味関心や実態に即した課題を設定し、自ら取り組む姿が見られた。
高 等 部	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加を促す力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を見据え、自立活動の視点を踏まえて、生徒一人一人の適性に合った支援を行う。 ・学校生活におけるさまざまな行事や活動を通して、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会生活を営む上で必要な力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の時間における指導が二年目に入り、各生徒が自分の課題を意識し、改善に向けて主体的に活動に取り組む様子が多く見られた。 ・三年ぶりに運動会を実施したり、野外活動や修学旅行を宿泊で行ったりするなど、感染症拡大防止を図りながら予定どおり年間行事に取り組めた。本来の力を発揮して生き生きと活動したり、学習した成果を実際の場面で生かし、より深く学んだりする様子が多く見られた。

【学校関係者評価を実施する主な項目】

項 目	評価結果と今後の課題
笑顔のある安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を日常的に行い、各部で実施方法を検討しながら行事や学習活動を実施することができた。 ・令和5年度は新たに校舎の改修工事が始まるため、防災体制の確認や見直しを進めていく。
12年間を見据えた、継続性・系統性を考慮した教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の発達課題に対して効果的な指導ができるよう、教員の研修会（「自活・ラボ」）を行うことができた。 ・今年度の課題や今後の目標を明確にし、次年度の担当者に引き継ぐことができるようにする。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間が多い教員には、引き続き体調を確認した。施錠時間前に言葉かけを行うことで、時間を意識して仕事を進めることができた。 ・業務改善について集めた意見を基に、すぐにできることから進めていくようにする。